

第4回福島市花と緑の基本計画策定検討委員会 会議録

- 1 日 時 令和8年2月24日(火) 13:30~15:30
- 2 場 所 福島市市民センター 303会議室
- 3 出席者 委員10名
小林 敬一 委員長 市岡 綾子副委員長
アサノ コウタ 委員 中野 義久 委員 金子 真樹 委員
羽田 ミチ子 委員 田崎 由子 委員 二階堂 義樹 委員
細田 真矢 委員 渡辺 駿 委員
- 4 欠席者 委員3名
鈴木 深雪 委員 山崎 樹里 委員 齋藤 信也 委員
- 5 内 容
（1）開会
（2）委員長あいさつ
（3）議事
①今後のスケジュールについて
②素案の(案)について
（4）閉会
- 6 会議詳細
（1）開会
（2）委員長挨拶
日本の人口減少が進む中、従来の枠組みに基づく都市計画も機能しにくくなり、花と緑の基本計画は現在、極めて難しい局面を迎えている。
しかしながら法律が抜本的に改正されているわけではないため、我々の思考が現状に追いつけず苦慮しているという現状もある。
例えば、従来はアメリカの公園ネットワークのようなシステムを都市に築くべきと考えられていた。しかし人口減少が進むにつれ、その勢いは次第に弱まっていった。その後、ビオトープネットワーク、エコシステム、エコシティなどといった、エコロジカルな環境を整備する議論も一時期は行われていた。
近年では都市でのクマ出没等も相次ぎ、エコロジカルな環境整備を前向きに考えることが難しくなっている。我々は今、そのような時代に直面している。

一方で、計画の目標値を実現することが求められるが、現実的に行政が採用できる手段も限られている。

そのような状況下において、こうした計画作りは非常に困難であるが、だからこそ、より効果的な計画や現実的なアクションにつながる計画を構築しなければならないと考えている。

そもそも緑の基本計画とは、都市と自然とのつながりを保ち、自然を介して人と人のつながりを生み出すことが都市に活力をもたらすものであるという考えが根底にある。このことを念頭に置き、福島らしい花と緑の基本計画をまとめ上げていただきたい。

本日も忌憚のない意見をいただき、効果的で現実的な計画へと結び付けていきたい。

(3) 議 事

委員長

議題①今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。

事務局

今後のスケジュールについて説明

委員長

議題②素案の(案)について事務局より説明をお願いします。

事務局

素案の(案)について説明

委員長

事務局の方から説明があったが、委員の皆様のご意見を頂戴したい。

委 員

説明にあった基本方針の目標指標について、市民一人当たりの都市公園面積の全体目標は、いずれも令和 6 年度の基準値以上を目指すことと示されている。人口減少により値は増加すると考えられるが、そのような中で 10 年後の数値目標をどの程度想定しているのか、またその試算をどのような方法で行うかについて、詳細に教えていただきたい。

事務局

10 年後の数値は、現在、福島市が保有している令和 2 年度版の人口ビジョンを基にしている。令和 7 年の国勢調査結果が今後反映される予定であるため、福島市としては新たな人口データを見据えつつ、改めて 10 年後の数値を算定していく予定である。

委員からご指摘のあった通り、人口減少の影響により一人当たり面積の基準値が必然的に増加することは事実だが、全国的な指標の一つとなっていることも確かである。そのような理由から、本計画において指標の1つとして掲げておく必要性があると判断し、設定した。

ただし、目標値・基準値以上という表現が適切であるかについては、令和 7 年度の結果を加味したうえで検討したい。

委員

資料2「福島市花と緑の基本計画(概要版)」P4 に記載されている基本方針の重点施策について、「花のまちづくりを継続し、市民とともに緑と花の彩りを創出する」と記されているが、若い世代に本計画の内容や取り組みを知ってもらうため、SNS 等を活用した情報発信をどのように考えているのかを教えてください。

事務局

現在、福島市が行っている情報発信としては、「緑化通信」が年に 4 回程度、花や緑、公園に関する出来事をホームページで発信している。

ただし、本計画でも掲げているように、花と緑に関する情報発信を強化する必要があると認識しており、発信方法については更に工夫していきたいと考えている。具体的には Instagram や LINE を活用した情報発信を検討している。また、福島市が行っている取組の1つに「チャレンジガーデン」がある。

この取組は 30～40 の団体や個人の方が自ら作った庭を紹介する活動である。このように、SNS による発信だけでなく、参加者個々が持つ SNS を活用して波及効果を生み出していくことにもつなげていきたい。

SNS を活用した情報発信は、非常に有益であると考えている。今後の発信の在り方を含め、本計画の中で委員の皆様と意見交換を行いながら、今後の施策へ反映していきたい。

委員

人口減少の影響はあるものの、まちなかの活性化という観点からは、花と緑が果たす役割は重要であると考えます。

人が行きたいと感じるような環境、あるいは美しい花や緑と共生することは不可欠である。

また、環境面では排気ガスを避けるための配慮も求められ、例えば小さな子どもが安心して楽しめる公園づくりも重要である。

さらには、安全性の確保も必要である。こうした点が、本計画や具体的な目標の中に盛り込まれていくことが望ましいと考えている。

おそらく計画の中にはすでに含まれている部分も多いと思われるが、それが市民の皆様に分かりやすく伝わる形で示されることが重要と考えました。

委員

商工会議所女性部では、駅前の花時計を担当しており、年に 5～6 回植え替えを行い、寄付を募りながら自分たちで管理している。

前回ふくしまデスティネーションキャンペーンが実施された際には、花見山の枝物や花時計、色とりどりのチューリップ等が並び、駅前は非常に賑やかであった。

これからの取組になるとは思うが、決して大きな駅前ではない福島駅周辺だからこそ、再びそのように花で彩られた空間になることを期待している。

委員

やや難しい部分であるが、具体的に「どのように実施するか」という手法そのものは、この場ではあまり関係がないのだろうか。

委員長

現段階でどの程度、具体的に検討しているかは不明瞭だが、そのような点に関しても、ご意見をいただいて結構である。

委員

例えば、花のまちづくりを継続し、市民とともに緑の重点施策④「花と緑の共生によるまちづくりの推進」を進めることや、中心市街地において中心事業を面的に拡大し、まちづくりの貢献を進めることについて、具体的にどのような方法で実施していくのかという点に疑問を抱いている。

また、評価指標の目標値は 5 年ごとに評価を行うとしているが、この 5 年という期間を設定した理由を教えてください。

事務局

まず重点施策④に関して、面的な拡大は、特に中心市街地を対象とするが、福島市では現在、駅前通りからパセオ通りにかけて、フラワーバスケットやプランターを活用した花の事業を展開している。この取組をさらに面的に広げていきたい。

具体的には、県庁通りから新浜公園にかけてのエリアを想定しており、資料中でも「花の重点ゾーン」として大きな矢印で示している。この区域を、地域の皆様の協力を得ながら拡充し、面的な広がりを持つ花のまちづくりへとつなげていきたいと考えている。

しかし、駅前のフラワーバスケット事業だけでは花のまちづくりとしてのインパクトは十分ではないと考えている。現在、駅前にフラワーバスケット等を設置してはいるものの、それだけでは花のまちづくりと呼ぶに足る効果を発揮しているとは判断しにくい状況である。

今回、デスティネーションキャンペーンが実施されることをふまえ、これまで令和 8 年 5 月頃に行っていたフラワーバスケットの取組を、花見山のオープニングに合わせた 3 月から開始

したいと考えている。この取組により、より多くの来訪者に花の魅力を伝えることができると期待している。このような具体的な取組も含め、地域の皆様とともに面的な拡大を進めていきたいと考えている。

また、目標設定を5年ごととした理由は、緑被率の算定に係る費用負担が大きいことによるものである。緑被率については、計測のために一定のコストが必要となることから、5年ごとに評価を行う形が適切であると判断している。

その他の指標については、毎年確認することが可能である。例えば、市民アンケートについては、LINE アンケート等を活用することで、満足度の把握を継続的に行うことができる。

以上のことから、緑被率以外の項目については、適宜毎年実行していきたいと考えている。

委員

資料2の概要版に示されている算定値について伺いたい。基本方針の図において「継承されてきた花と緑を守る」という部分のうち、重点施策③「維持管理の最適化」について、今後、人口減少が進む中で、維持管理にDXを導入していくという点が気になっている。

従来の維持管理手法から、今後どのように変える予定か、可能であればお聞かせいただきたい。

事務局

まず、ここで示しているDXの導入について説明する。福島市には都市公園を含め約600箇所の公園が存在する。これらに関する図面等は現在PDFなどの形式でデータ化し保存しているが、これらの情報をより適切に維持管理できるデータに更新したいと考えている。

例えば、公園ごとに存在する各種施設、園路などの設備については現在Excelで管理しているが、施設ごとの総数や状況が断片的なデータとしてしか把握できていない。そのため、必要な集計を行おうとすると、多くの手間を要しているのが現状である。これらの課題を解消するため、データベース化を進め、業務の効率化につなげていきたいと考えている。

民間事業では、現場点検にタブレットを持参し、その場で全ての作業を行うようなシステムが広く導入されているが、福島市ではまだその段階には至っていない。

人口減少が進む中で働き手も減少しており、外部委託している植物管理なども含めて、限られた人員で継続的に維持管理を行う必要がある。このような状況を踏まえ、DXを活用して業務効率化を図りたいと考えている。

委員

青年会議所として特に気になっているのは、資料2「福島市花と緑の基本計画(概要版)」P3に記載されている基本方針Ⅲの目標指標⑥「都市公園のイベント等による活用件数」である。

この指標は現在算定中となっているが、イベントにはいわゆるフェスティバルのように分かりやすいものがある一方で、先ほど話題に挙げたような「子どもたちが緑を鑑賞する」「冒険する」といった活動のように、件数としてカウントしにくいものがあると認識している。

公園によっても特性が異なるため、一概に件数のみで評価するのは適切ではないと考えている。また、駐車場が無いなどの理由から、使いにくい公園もある一方、新浜公園のように EV ガーデンとのコラボレーションによる音楽イベントなど、多様な活用が行われている事例もある。もう少し解像度を高めた指標にすると、都市公園としての満足度をより適切に計上できると考えている。

委員

資料2「福島市花と緑の基本計画(概要版)」P3 の基本方針Ⅲ「守り育てきた花と緑を『活かす』に基づく施策」の部分に関してだが、Park-PFI により民間の活力を活用し、より地域を盛り上げていくという視点は極めて重要であると感じている。その上で、Park-PFI の先行事例として開成山公園の取組が参考になると考えている。

同公園のテナントについては賃料が比較的高く、オープン当初は利用されていたものの、現在では空きが出ているという情報もある。そのため、民間活力を導入するには、こうした先行事例を丁寧に検証した上で、より良い公園のあり方を検討していくことが重要であると考えている。

また、最後に一点質問をさせていただきたい。先ほど、全体のスケジュールの説明で上位計画が来年度も継続されることに伴い、この策定検討委員会も次年度まで継続するとの説明があった。

しかし、現時点で素案は非常に完成度が高い段階にあると感じているが、次年度に策定検討委員会を継続した際、どの範囲を議論する予定なのか、また上位計画が変更された場合、この素案も大幅に修正される可能性があるのかについて、内容に踏み込んだ形で次年度のスケジュールやお考えをお聞かせいただきたい。

事務局

まず、一年先送りとなった都合上、時点修正が必要となると考えている。令和 7 年度の実績が新たに示されるため、項目によっては実績を更新する作業が発生する見込みである。

さらに、上位計画と個別計画は、直接的に関連を持つ部分は多くないと認識しているが、ご承知のとおり市長が代わり、市長が掲げる「こどもまんなか」というフレーズは、当初から本計画にも盛り込んでいる。

また、「文教都市」という視点についても、福島市の歴史を踏まえた重要な要素として捉えているところである。

そのため、上位計画の方向性や市長交代に伴う政策的な方針については、改めて確認しながら計画内容を整理していく必要があると考えている。

今回の策定委員会を 5 月または 6 月を予定としているのは、上位計画のスケジュールに加え、このような時点修正を反映した素案を再度提示し、委員の皆様にご審議いただくためである。

また、本計画についてはパブリックコメントの実施も予定しており、パブリックコメントを経た原案についても、皆様に改めてご確認いただく流れとなっている。

ただし、現時点でパブリックコメントがいつ頃実施されるか、どの程度の修正が発生するか明確ではない。そのため、本計画のみならず、他の個別計画も一律一年のスケジュール変更が生じており、森林ビジョン等も全て同様に後ろ倒しとなっている。これらのパブリックコメント実施時期との整合を図りつつ進める見込みである。

委員

国や他自治体との比較が必要な指標について、一定の制約があることは理解している。

しかし、人口が減少すると割合が増えることを前提とした指標が設定されていることには、やや疑問を感じている。もう少し質的な観点から評価し得る指標が設定できないか。

具体的には、基本方針Ⅰに対する目標指標の部分である。また、基本方針Ⅲに関する指標のうち⑤の「都市公園の愛護団体組成率」について、現状 198 箇所に対して 67%という数値は非常に高い水準であり、評価すべき点であると感じている。

しかし、愛護団体の創設時期や現在の活動状況を踏まえると、10 年後にどうなっているかを慎重に見極める必要があると考える。目標値として 80%を掲げているものの、その達成可能性には不確実性が残るという懸念がある。

また、今後新たに愛護活動を担う人材を増やしていく意図があるならば、どのような層に対して、どのような支援があれば活動が広がるのかを示す必要がある。ただ単に「団体数を増やす」という方向性だけでは、実効性のある施策にはつながりにくい。

さらに、指標が都市公園に限定されている点も気になっている。本計画においては、都市公園以外の場面でも住民と連携して取組を広げていく方針が示されている。

そのため、これまでの延長ではなく、新しい市民参画の動きがどれほど生まれているかを示す指標を可視化できれば良いと考える。これは、ほかの委員が指摘された、イベント活用件数が数値のみで示されている点にも通じ、活動の実態をより質的に捉える指標が必要という問題意識にもつながる。

次に、中心市街地における主な施策についてである。主な施策が 8 項目掲げられているが、そのうち「⑧かわまちづくりの推進」については、どこを対象として実施するのかが明確になっていない。素案も確認したが、かわまちづくりを本格的に推進するには、相応の組織体制や調整が必要となる。本項目には具体的な構想があるのか伺いたい。

また、ほかの委員のご意見にもある「集約」という観点については、人口減少とコンパクトシティの流れを踏まえると、同規模の都市公園を複数新設するのではなく、既存の空間を集約的

に活用するという方向性が想定されているものと思料する。一方で、緑の空間が失われていくという印象を与える可能性もあり、この点については丁寧な説明が必要である。

市長の掲げる「こどもまんなか」方針についても同様である。重要な理念であることは理解しているが、実際には高齢者と子どもが一緒に来園し交流する場面も多く、高齢者人口が今後さらに増加することを踏まえれば、元気な高齢者が積極的に関わるような視点も併せて示しておく必要がある。子どもへの施策を強調するあまり、他の重要な視点が抜け落ちている点が気になった。

最後に、情報発信についてである。ほかの委員が言及された点とも関連するが、最近ではニュース番組の気象情報のコーナーで市民からの写真提供が増えている事例のように、市民が日常の延長で手軽に参加できる仕組みがあると良い。「今日この花が咲いていた」「ここにゴミが落ちていた」といった市民の気づきを共有できる仕組みを整えば、団体に所属していなくても花と緑に関わることができ、市民参加が自然と広がるのではないかと期待している。

DX の導入を検討する際には、このような日常参加型の市民プラットフォームの福島市版として展開できれば大変有効である。さらに、イベント情報や子どもの活動の様子などを合わせて発信できると、多様な世代が参加しやすくなると期待している。

事務局

本日、欠席の委員からの意見について紹介する。

委員長

ご指摘いただいたとおり、「子どもまんなか公園づくりの推進」とあるが、当然ながら高齢者も共に参加できる公園が望ましい。

まず細かな点であるが、基本方針Ⅰ～Ⅲに対する重点政策が、それぞれ通常 3 つずつ掲げられている中で、基本方針Ⅲのみ 1 つしか項目がない点は、寂しい印象を受けた。

今後は人口が増えない以上、公園面積が増える時代ではない。委員からご指摘があった通り、新しい市街地を整備しない限り、公園のみを新規に大規模整備することは難しいためである。

事務局から説明のあったとおり、人口減少により一人当たりの面積が増える程度で、量的な拡大は期待しにくい。むしろ重要なのは量ではなく質であり、さらに利用者がどのような経験をできるかという点である。

これまで都市計画は量の拡大を指標とすることが多かったが、これからは福島市の緑や公園が人々にどのように受け止められ、その体験がどれほど豊かであるかが重要な評価軸となると考える。量的指標を用いても、目的に十分沿わない可能性があるため、基本方針Ⅲのような「活用」の視点は今後より重要性が高まるであろう。

前回、委員から出た緑視率にも関連するが、緑視率そのものは過去にうまく運用できなかった経緯があるものの、人が見てどう感じるか、緑をどう体験するかという発想は重要である。

駅前に降り立って花時計が目に入る、再開発エリアから商店街へと花の軸が続いているなど、印象に残る通りや象徴的な広場を形成することが都市の体験価値を高める。

都市計画用語では古くからイメージビリティという概念があるが、今後は緑や花を媒介として都市のイメージをどう高めるかが課題となる。空間のデザインに加え、ソフト面からイメージを積極的に形成していくことが求められる。

次に、情報発信についてであるが、ほかの委員からも指摘があったが、単に情報を発信するだけでなく、「今この花が咲いた」「フキノトウが生えた」といった、市民同士の自然な会話がまちの中で生まれるような環境が重要である。

福島市では花や緑の話題が日常的に飛び交い、散策すれば庭が魅力的に整えられている、そのような状況が積み重なることで、福島市は花と緑が豊かな町だという共通認識が自然と醸成される。このような文化的土壌を整えることが大切である。

また、活用の観点では PFI も重要な手法ではあるが、それだけに依存せず、地域のまちづくりや住環境づくりとの連携も含めた多様なアプローチが必要である。これにより緑や花を効果的に支える体制を構築し、福島市らしい緑のまちづくりが展開できると考える。

さらにイベントについても、委員から指摘があったように、イベントと一口に言っても多様である。その多様性を生かして広げていくことで、「福島市の公園・緑地は本当に活用されている」と胸を張って言える状況を作ることが重要であろう。

イメージビリティ、情報発信、イベント、まちづくりとの連携といった複数の軸から、福島市らしいアプローチを明確化することで、「福島市に必要な施策はこちらである」という説得力の高い計画になると感じた。あくまでも印象ではあるが、今後の計画づくりの方向性として有効と考える。

委員

アンケート調査を実施した際に、不満、やや不満と回答した人々が具体的に何に不満を抱いているのかについて、把握しているのかどうかという点である。仮にすべてを反映することは難しいとしても、そこから課題が見えてくる可能性があると考えられる。

また、「人口減少局面における担い手の確保」と課題として掲げられている点については、指摘自体は当然のことであると思うが、その課題に対してどのように応えていくのが十分に示されていないと感じた。

事務局

アンケートについては、「やや不満」「不満」と回答した方々が自由記述で記載した内容については把握している。ただし、自由記述は必ずしも全員が記載しているわけではないため、すべての不満点を網羅できているわけではなく、自由記述に寄せられたもののみを把握している状況である。

次に、人口減少局面における担い手の確保についてである。この課題は、先ほど触れた愛護団体の減少とも関係している。本年度も 2～3 団体から活動継続が難しいとの声が寄せられている。活動継続が難しい主な理由は高齢化であり、従来の形態では継続が難しくなっていることが課題となっている。

これに対し、子どもたちとの連携など、新たな仕組みによって活動を持続可能にする方法を検討しているところである。現状では町内会が主体となっているが、実際には活動継続の困難さを訴える回答が多く、福島市としても試行錯誤しながら継続を要望しているのが実情である。

したがって、目標値として掲げている 8 割は相当にハードルの高い数値であると認識している。しかし、従来と同じ方法を続けるのではなく、町内会のみならず地域企業などとの連携も含め、地域との関わり方を拡大しながら、団体の持続性を高める仕組みを再検討していきたいと考えている。

委員

「普通」や「やや不満」などの選択肢について、回答者がどの程度の気持ちで「普通」と回答しているのかという点に疑問を感じた。

別の場面でアンケートを取った経験から言えば、コメントがあれば意図が把握できるものの、「普通」という選択肢は丸をつけやすく、あまり深く考えずに選ばれることが多いと感じている。そのため、こうした回答割合は、ある程度の目安として捉える必要があると感じた。

また、公園の活用についてであるが、高齢者人口が増える中で、施設を借りたくても借りられず、活動場所に困っているという声を聞く。高齢者が必ずしも屋内施設で活動する必要はなく、公園を活用することも考えられる。

また、高齢者が公園で活動すれば、大人の目が自然と届くようになり、そこで遊ぶ子どもたちの安全性の観点からも良い影響がある。そのような「日常的に目が行き届く公園の活用」は有効だと感じた。

事務局

先程、ご意見のあった一人当たりの将来の公園面積に関する質問についてですが、2035年、約 10 年後の推計人口を用いた場合、一人当たりの公園面積は 13 ㎡をやや上回る水準になる見込みである。これは、令和 2 年度の国勢調査の人口を基礎とした推計値を用いたものであり、本市の人口ビジョンによる推計ではないが、この方法で計算した場合、現在よりもおよそ 1 ㎡程度増加するイメージになる。

委員長

本日の意見を次回の委員会へ反映して頂きたい。本日の議事については以上とする。

事務局

本日、皆様からいただいたご意見については、素案へ反映させていただく。また、皆様にお配りした資料の中に「意見書」として Excel シートを添付している。本日の議論で十分に触れられなかった点や、持ち帰って読み直した際に気づいた点などがあれば、そちらにご記入いただきたい。ご記入いただいた資料については、メールにて送付していただきたい。提出期限は 3 月 13 日(金)を目安としている。

新年度に第 5 回策定検討委員会を開催する予定である。日程が確定次第、資料と合わせて事前に委員の皆様へご連絡申し上げる。以上をもって、第 4 回委員会を終了する。

4. 閉会